

二つの母国語、楽しさ伝える

南カリフォルニア
南加岐阜県人会100周年からの風

15



大学院在学中、教育実習先での私の授業風景。劇作家ウィリアム・シェークスピアの「ジュリアス・シーザー」の有名なシーン「ブルータス、お前もか」を生徒たちが書き換えて演じている風景

日本では、中学校までの義務教育、春の卒業と始業式、教室には担任の先生がいることなどが当たり前ですが、アメリカの義務教育は12年で、小学校が5年、中学校が3年、高校が4年で、合計12年が全て義務教育！公立でも、ほとんどが私服で通学します。

9月の始業から6月の終業までの間、冬休みや春休みがあります。夏休みは3カ月弱！また一般的に、担任は、小学校のみとなっていて、中学校からは、生徒が時間割に合わせて教室間を移動します。もちろん、現地校での授業は、全て英語です。そして、日本では「何年生？」と言う問いに「中学3年生」など、学位を述べると思いますが、アメリカでは「8年生」と、12年間の義務教育の位を述べます。

こうした環境の中、アメリカに滞在する日本人の子どもたちの多くは平日、アメリカの公立や私立校で現地の子どもたちと英語の授業を受け、週末には、日本語維持や、駐在者は、帰国時を考え、日本語学校・補習校へ通います。

私は残念ながら、日本語学校に通えませんでした。その代わり、幼少の頃から日本人であることを誇りに思い、家族との会話や、マンガやテレビ、雑誌、音楽などのエンターテインメントを通して、独自に日本語を学びました。漫画で漢字の読みを覚え、友人へ手紙を書く際には辞書を引き、普段から英語と日本語を混ぜて話さないように気を付けることにより、日本語を維持できるよう努力をしました。

そして昨年、10カ月間日本で短期のお仕事をさせていただく機会を得、これまでは家族や友人の日本での体験を聞き、疑似体験ばかりを繰り返していた私にとって、綺麗な日本語を話し、そして活(い)かす作法を学ぶことができたこの体験は大変刺激になりました。

岐阜出身の母を持ったアメリカ育ちの私は、日本語の大切さを教えてくれた両親に感謝しながら、これからは英語、日本語、二つの母国語を通してさまざまな国の人たちを知り、また多くの子どもたちにも言葉で世界をつなぐことの楽しさを伝えていけたらと思っています。(文・八木映里香)



やぎ・えりか 1986年

2月、オーストラリア生まれ、生後8カ月より南加州育ち、日本国籍

カリフォルニア州立大学アーバイン校、日本語学&文化を専攻。同校の大学院にも通い、教職を専攻し16カ月で教師資格を得る。

岐阜新聞130年 ◆ ふるさと再発見シリーズ